



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第  
2号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第2号). 泌尿器科紀要 1958, 4(2): 114-114

ISSUE DATE:

1958-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111561>

RIGHT:

## 編 集 後 記

日本医師会雑誌の昭和33年12月1日号論説話題欄に「専門科目の再検討」と題する一文が載っており、眼科、耳鼻科、泌尿器科などの分科としての独立性に就て述べられている。それによると、近年はこれらの科目を専攻する者が減つて来た。それで眼科と耳鼻科を合せて「顔科」となし、泌尿器科なども既に独立性を失つているとも言われるから、現在の分科を整理統合したほうがいいのではないかと、この筆者は言う。またそのようになっては専門医難を来して本当の眼科患者が困ることも案ぜられると言う。更にラジオやテレビが宣伝をするから眼科や泌尿器科の薬のしろうと濫用が行われるとも言う。この一文を読むとこの筆者は分科の統合がよいと言うのか、それでは患者が困ると言うのか、どちらを主張しているのか判らない。いずれにしても我々泌尿器科の立場から言うと、この筆者は泌尿器科の現状を知っていないようである。昔の泌尿器科は淋疾が大きな部分を占めているような性格であつたが、現在は泌尿器、性器に関するあらゆる方面に亘つて専門的に突き進んで研究を行つている。深いばかりでなく範囲も著しく広がつてゐる。入局志願者が少いか病院として採算が伴わぬということが仮りにあるとしても、それは分科としての必要性の有無とは別の事である。むしろ我々は泌尿器科の学問的及び臨床的独立性を益々強く主張し要求せねばならぬと考えている。



わが国現在の医療制度は正直なところ混乱している。厚生省、医師会、大学病院、公的医療機関、保険者指定或は組合病院などはそれぞれの立場から主張し行動している。医療に従事している者は各自の立場を固執せずにもつと大きな観点に立ち、国民全般の医療に就て最善の方途を考えるべきではなからうか。わが医学界には学者として、また臨床家として立派な偉い人が多数居られる。これらの人達も以上の問題に就て考慮せられるべき時ではなからうか。

## 購 読 要 項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

## 投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部